

「Unit6 What would you like? 」 (9時間)

授業者：安彦 有里恵

1 社会的背景（現状と課題）

2017年より、文部科学省が発表した新学習指導要領より、第5・第6学年では、これまでの外国語活動を軸に「読むこと」「書くこと」にも慣れ親しませるための教科としての年間70単位時間の「外国語」の学習が始まった。英語の音声に慣れ親しむため、歌やゲーム等の学習活動は非常に有効な学習活動だと考えるが、一方、国立政策研究(2017)¹による外国語活動を担当する教員による意識調査では、児童が自分の立場で自分の考えや気持ちを指導者や友達と伝え合うコミュニケーションまで至っていないという課題があることについて言及がある。現状として、自分のことを伝えるためにコミュニケーションを図ろうとする姿勢がみられるが、個人差があり、相手を知ろうという相手意識をもちながら学習を継続していくことには課題がある。角谷(2021)¹¹は、小学校英語教育における学習で、ペア・グループ学習は、学習者のコミュニケーションの不安感の軽減が期待される重要な役割を果たしているだろうと推察されると示唆している。そこで、ペア・グループ学習のように、自分の考えや思いを伝える相手がいることで、相手意識をもってコミュニケーションを図ろうとする意欲が向上し、外国語をつかって会話を行うことができたという達成感を感じられるのではないかと考えた。石森(2019)¹¹¹は、英語の授業では、ことばの規則や文法構造を理解させることだけでなく、積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢を育てることも重要な目的であると示唆している。そこで、本単元では、大野農業高校の高校生との英語交流学习を行い、学習前と後での児童の外国語をつかったコミュニケーション意欲や達成感の変化を検証したいと考える。

2 本単元の「新たな価値を創造する力」につながる資質・能力

本単元では、「大野農業高校の高校生を附属レストランに招待しよう」という単元のゴールにむかって学習計画をたてる中で、大野農業高校の高校生との英語交流学习を行い、学習前と後での外国語をつかったコミュニケーション意欲や達成感の変化を検証したいと考える。自分の考えや思いを伝える相手がいることで、相手意識をもってコミュニケーションを図ろうとする意欲が向上し、外国語を使って会話を行うことができたという達成感を感じながら「開かれた考え方」を育むことではないかと考えた。

既習の語句・表現を用いて、相手意識をもってコミュニケーションを図ろうとする、「開かれた考え方」の育成を目指した子供の姿(図1)を設定し、単元構成や教師の支援の工夫を構想する。



図1 目指す子供の姿

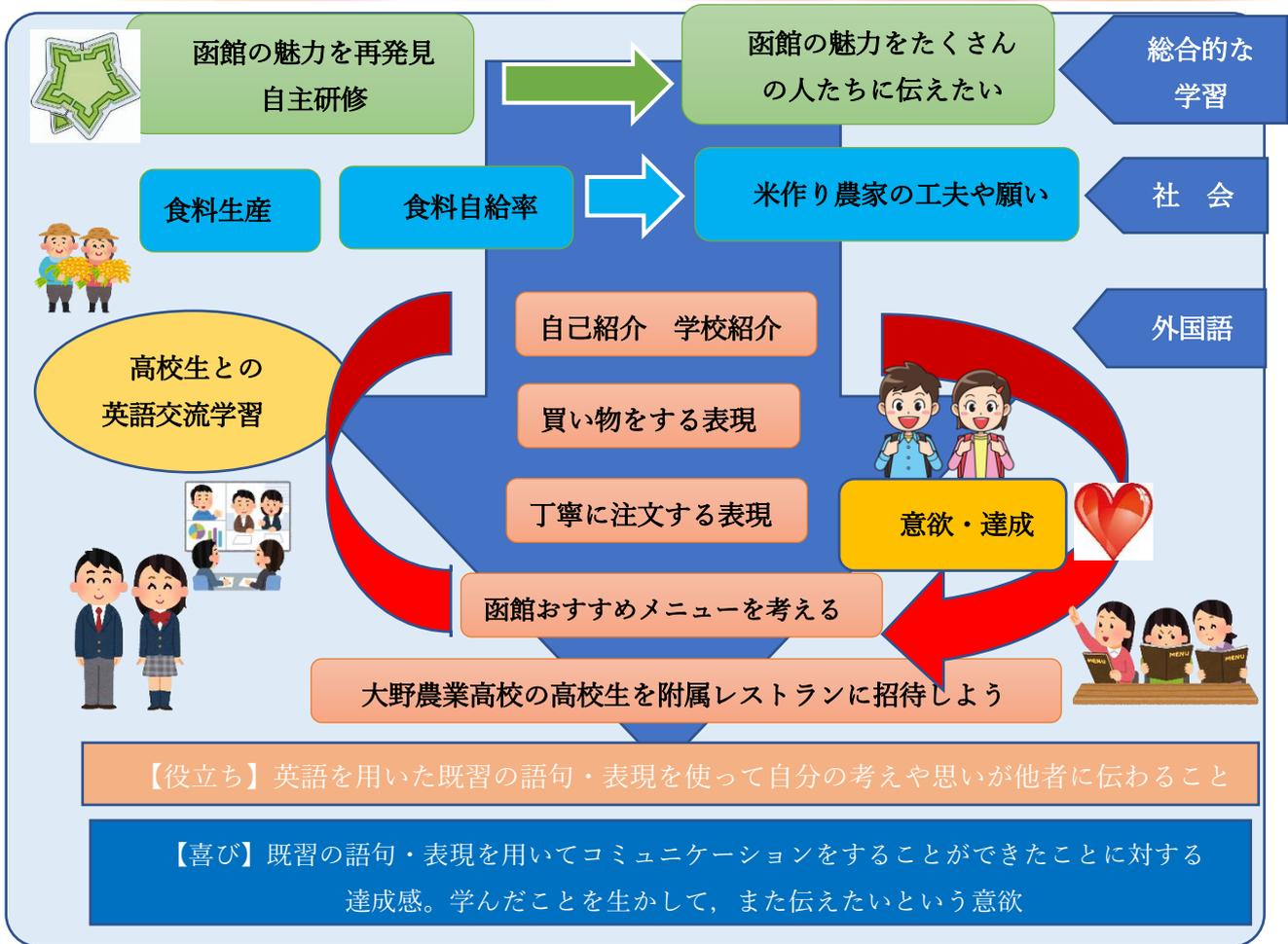
3 研究仮説

英語を使った既習の語句・表現を用いて、会話しながら丁寧に注文したり、買い物したりする表現や、函館らしいおすすめメニューを紹介する学習活動を展開する。実際に英語を用いて伝える相手がいることで、英語を使って話すことに対する意欲や達成感を高めながら学習できるのではないかと考え、次の通り研究仮説を設定した。

研究
仮説

英語をつかって、相手意識をもちながら函館おすすめメニューを考える学習展開をすることで、開かれた考え方を育むことができる。

4 研究のデザイン



5 本単元の目標

英語をつかって、丁寧に注文し買い物をする学習や、函館らしいおすすめメニューを考える活動の中で、実際に会話したり伝えたりする相手がいることで、英語をつかって話すことに対して意欲を高めながら学習する。

6 本単元の評価規準と評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
【語句・表現の理解】 丁寧に注文したり、買い物したりする語句・表現を理解している。 グループごとに考えた函館らしいおすすめメニューを紹介する表現を理解している。 * 発話記録・学習記録	【既習の語句・表現の選択・判断】 函館おすすめメニューを紹介する表現を用いて、相手に伝わるよう考えて紹介しようとする。 * 発話記録・学習記録	【英語をつかって会話することに対する関心・意欲】 丁寧に注文したり、買い物したりする語句・表現を用いて会話する場面で、会話する相手がいることで、自分の考えを伝えたり、相手の考えを知ることに対して意欲を高めることができる。 【相手意識をもって学習する】 函館らしいおすすめメニューを相手にわかってもらえるよう、相手意識をもって伝えようとしている。 * 発話記録・学習記録・質問紙

7 本単元の構成（全9時）

本単元では、「大野農業高校の高校生を附属レストランに招待しよう。」というゴールにむかって明確な場面設定を行い、単元の学習計画をたてる。学習計画の中で、大野農業高校でつくっている農産物を実際に見せていただき、英語をつかって買い物をする場面を取り入れる。このことから、英語をつかって話す機会を直接もつことができることで、相手意識をもちながら学習することができると思う。グループごとに考えた函館らしいおすすめメニューを考え、その中に自分のおすすめメニューを加えることで、自分の立場でおすすめメニューを伝えることができると思う。また、高校生に伝えるという相手がいることで、自分たちの思いを伝えながら、相手の思いを聞きたいという姿勢や、相手に喜んでもらいたいという思いをもつことにつながると考える。英語をつかうことに対して意欲を高め、相手意識をもちながら学習する子供の育成を目指し、本単元を以下のように構成する。

時	○ 学習活動と価値をつくる子供の姿	★教師のかかわり	評価
1	○ 大野農業高校のみなさんと自己紹介しあう。 農業高校でつくっている農作物などのクイズを行う。	★社会「未来を支える食料生産」で米作りについて学んだことを想起させる。	主 英語で会話することへの関心・意欲
2	○ 「大野農業高校のみなさんにおすすめの函館メニューを考え紹介しよう」というゴールイメージをもって学習計画をたてる。 ○ 単元テーマを設定し、共有する。 おすすめの函館メニューを考え、大野農業高校のみなさんを附属レストランに招待しよう。	★主体的に学習を進めていくことができるよう提示する場面から考えられる会話を想起させる。	
3	○ 映像を見て、レストランで丁寧に注文するやりとりのおおよそを聞き取る。 What would you like? I'd like ○○. ○ ペア、グループで会話の練習をする。 ○ レストランで会計の際に料金をたずねたり、お金を渡したりする練習をする。 How much is it? It's ○○ yen please. ○ ペア、グループで会話の練習をする。	★単元の学習の見通しをもつことができるよう、課題を提示する。 ★丁寧に注文したり、料理を渡したりすることができるよう、グループごとに会話練習の場面を設定する。	知 丁寧に注文する語句・表現
4	大野農業高校のみなさんが作っている農作物や乳製品を英語をつかって買い物してみよう。	★実際に英語をつかって会計したり、お金を渡したりすることができるよう、高校生との会話場面を設定する。	思 自分の買いたい物を選び、買い物をする表現を言う
5	○ 会計の際に料金をたずねたり、お金を渡したりする表現をつかって会話をする。 How much is it? ○○ yen please.	★総合的な学習で函館の魅力を再発見した自主研修を想起させる。	主 函館の魅力を振り返り、おすすめメニューを考える
6	○ グループごとに函館おすすめメニューを考える。	★グループごとに会話の様子を動画でとりあい、よりよい会話をめざして練習を行う。	思 函館メニューを相手にわかるように伝える
7	○ 注文したり、渡したりすることができるよう、グループごとに英語を使った言い方を学習する。 ○ グループごとに考えた函館おすすめメニューに、自分のおすすめのメニューを考える。 大野農業高校のみなさんに函館メニューを注文してもらうことができるようグループごとに会話の練習をしよう。	★実際に英語をつかって丁寧に注文したり、料理を渡したりすることができるよう、高校生との会話場面を設定する。	主 相手意識・意欲の高まり
8	おすすめの函館メニューを考え、大野農業高校のみなさんを附属レストランに招待しよう。		
9	○世界の食文化について考えよう		

8 本時 (8/9時)

大野農業高校のみなさんを附属レストランに招待しよう」という単元のゴールを設定し、レストランでの丁寧な注文の仕方や、会計の時に料金を聞いて支払う表現を学習してきた。

本時では、グループごとに考えた函館メニューと自分のおすすめの一品を加えたメニューを大野農業高校のみなさんに紹介し、注文してもらう学習を行う。

本時の目標

大野農業高校のみなさんに、グループで考えた函館メニューと自分のおすすめの一品を注文してもらえるよう、ていねいな注文のききかたや会計の表現を言うことができるようにする。

【前時まで】グループで函館メニューを考え、そこに自分のおすすめの一品を考える活動を行った。

学習活動 (○) と子供の姿

評価

★教師の関わり

○ warm up を行う。

○ 動画で友達の会話を見て、前回まで学習した質問や答え方を振り返る。

ていねいに注文をきく時は
“What would you like?”
と言うんだね。

私たちの班はハンバーガーメニューを考えましたよ。
This is a delicious hamburger.

会計の時は。
“How much is it?”
と言うんだね。

ぼくは、やっぱり牛乳がおいしいと思う。牛乳で作ったアイスクリームをおすすめするよ。

○ 本時の課題について見通しをもち、交流活動を行う。

大野農業高校のみなさんに、おすすめ函館メニューを注文してもらえるよう、店員さんの表現を練習しよう。

S1: Hello!
This is delicious hamburger menu.
Potatoes is from Ono. It's very delicious.
What would you like?
S2: I'd like a hamburger.
S1: How much is it?
S2: A hamburger is 500 yen.
S1: Here you are.
S2: Thank you..

わたしたちの班はハンバーガーがおすすめです。

ぼくは大野産のポテトをおすすめするよ。

ていねいな表現で注文を聞くことができたよ。

S1: Hello!
Welcome to our shop!
This is sushi menu.
Rice is ふっくりんこ。
It's very delicious.
Squid is very fresh.
What would you like?
S2: I'd like sushi .

S1: How much is it?
S2: Sushi set is 670 yen.
S1: Here you are.
S2: Thank you. See you.
S2: See you.

函館の美味しいすしを注文してほしいな。

米は、ふっくりんこをつかっていておいしいのでおすすめです。

函館のイカは新鮮でおいしいのでおすすめです。

会計では、料金を言うことができたよ。

○ 本時の学習をふりかえる。

自分の班で考えたおすすめメニューを紹介できるようになった。

○○さんは、笑顔で明るくおすすめメニューを紹介できていたのでよかった。

ぼくの考えたおすすめメニューを注文してくれた友達がいてうれしかった。

大野農業高校のみなさんにも、自分たちが考えたおすすめメニューを注文してほしいな。

思 オリジナルメニューを紹介し、相手にていねいに注文や会計の表現を言うことができる。

★前時までの学習をふりかえることができるよう、学習した動画を提示する。

★学習した表現や、伝え方のポイントなどをふりかえる。

★前時までの子供たちの学習のふりかえりから、本時の課題につながるよう促す。

★会話している中で、会話のモデルとなるグループを抽出し、ポイントを意識しながら会話できるよう促す。

★自分のたてためあてにどのくらい近づくことができたか、(できるようになったこと、わかったこと、楽しかったこと、次に生かしたいことなどの視点で) 学習をふり返らせる。

★実際にどんな場面で学習してことが生かせるかを考えさせる。

ⁱ 角谷 尚希, 前田 康二(2019).小学校英語におけるブレンディド・ラーニングを取り入れたコミュニケーション意欲を高める取り組みの考察-コミュニケーション能力の「社会言語能力」「方略的能力」を意識させる実践を通して-

ⁱⁱ 角谷 尚希 (2021).小学校英語教育における ブレンディド・ラーニングの要素についての研究-ペア・グループ学習の効果に着目して-

ⁱⁱⁱ 石森 広美 (2019).「生きる力」を育むグローバル教育の実践~生徒の心に響く主体的・対話的で深い学び~,p.73.